

南部中学校総括評価表 (No1) 令和5年度末

自己評価		学校関係者評価			次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見
1 学校運営	① 教育目標・教育方針の教職員生徒、保護者への周知徹底 ② 教職員の資質の向上 ③ 保護者・地域への情報発信	評価指標 ①-1 わかりやすいとする保護者 ①-2 周知に取り組んでいる教職員 ② 資質向上に取り組んでいる教職員 ③ 学校は情報発信しているとする保護者	評価指標の達成度 ①-1 B ①-2 A ② A ③ B	総合評定 評価指標の達成度を平均 (評定) B	地域への情報発信について(課題解決の方策) ①地域新聞に中学校の活動を掲載してはどうか。 ②コミュニティセンター・公民館へのPRを生徒会等が行う。 ③防災の会・防災マップの作成など、地域の方と話しながら協働作業を行う。 ホームページを見る機会はないので、上記のような活動を積極的に行った方がよい。 コロナウイルス感染症も5類引き下げとなり、保護者の来校機会も増えたと思う。行事の際には、今年度同様、オンデマンドを活用しながら生徒の様子を保護者に伝えてほしい。
		活動計画 ① PTA総会資料配布や学校行事等での教育目標・教育方針の説明・周知と学年の掲示板や各種たより、HPの活用 ② 昨年度の改善事項を取り入れた、教職員の資質向上への取組 ③ 一斉配信メールやHP更新など迅速な情報発信	活動計画の実施状況 ① 今年度は、学校行事を直接ご参観いただいたり、オンデマンド 配信を行ったりした。修学旅行説明会等は、オンデマンド配信のみとした。また、学年掲示板(学校・学年のスローガン)や各種たよりを充実させ、周知と理解に努めた。 ② 時宜を得たメンター研修を実施し、若手・ベテラン相互の教師力向上を図った。また ICTの活用については、支援員の活用が有効であったが、まだ方策が不十分であった。 ③ 保護者へのお願いやお知らせ、気象警報発表時等に一斉配信メールの活用を行った。また、学校生活の様子を随時 HP で発信するよう努めた。	(所見) 今年度は、学校行事を保護者へ公開したり、説明会等はオンデマンド配信したり、方策を考慮して進めた。 メンター研修や普段の OJT により、若手教職員の意識が向上した。昨年同様、保護者への情報発信は迅速であったが、地域への情報発信には課題が残る。	コロナの5類引き下げに伴い、学校行事への保護者参加が昨年以上に可能となった。来年度も、保護者の方には、直接参観とオンデマンド配信を有効に活用しながら生徒の様子をご覧いただきたい。また、引き続き HP の充実に努め、保護者や地域に対して、学校からの発信を積極的に行う。時宜を得たメンター研修を継続し、若手・ベテランの資質向上に努める。また、タブレットの活用を積極的に行うよう、研修や支援員の活用、有効活用している授業の紹介を行っていく。地域への情報発信については、生徒会等と相談を行い進めていく。
2 学力向上・教科指導	① 学習意欲の向上と学習習慣の確立 ② 授業力向上の工夫・充実 ③ 家庭学習の定着	評価指標 ①-1 教職員が工夫して授業を進めているとする生徒 ①-2 タブレット端末を有効に活用している生徒 ② 授業力の向上に努めている教職員 ③-1 家庭学習を行っている生徒 ③-2 家庭学習の時間増の工夫をしている教職員	評価指標の達成度 ①-1 A ①-2 C ② A ③-1 A ③-2 A	(評定) A	授業力向上のために、相互参観授業の期間を設けていることは良いと思う。 タブレット活用に長けている若手教員の力を上手に活用して、学校全体でICT教育に取り組むことが大事であると思う。メンター研修や校内研修、教科研修でICTの効果的な活用を考えてほしい。 生徒に、できるだけタブレットを活用する機会を作り、楽しんだり興味をもったりしながら、授業を進めてほしい。
		活動計画 ①-1 学力向上検討委員会における学力向上実行プラン(目標やめあてと振り返り)の充実 ①-2 ICT(ミライードやmetamoji)の活用 ②-1 相互参観授業やメンター制度を活用し、授業技術の共有 ②-2 朝読書の推進 ③ 宿題等の工夫及びその点検	活動計画の実施状況 ①-1 毎時間、目標やめあてを掲げ、生徒の自己評価を昨年度に引き続き、R80 やポートフォリオ等で実施し、効果も検討した。 ①-2 総教センターのHPからダウンロードしたICT活用方法の資料等やメンター通信を職員室に掲示し、タブレット活用につなげた。 ②-1 相互参観授業を年間2回実施し、そこで得られた知識や技術等を教職員で共有した。 ②-2 各学年で、朝読書を実施した。 ③ 毎日家庭学習に取り組む生徒は約8割、意欲的に取り組む生徒は約4割であった。	(所見) 目標やめあてはどの授業も明示していた。その目標やめあてに対する自己評価を取り入れる授業も増えた。MetaMojiを効果的に活用する場面が多くなった。 相互参観授業を行うことで、教職員同士で刺激を受けていた。	生徒用タブレットの有効活用が少ないのが課題である。課題を解決するために、メンター研修を活用し、教職員に向けての研修を短い時間で多くの回数実施していく。 教科部会を行い、知識・技能定着のための指導法やその効果についての情報交換をする。 相互参観授業は引き続き行い、その実施時期についても検討を重ねる。 学校評価アンケートから、生徒の学習する習慣の定着に課題が残る。家庭学習内容を工夫させたい。
3 生徒指導・交通指導	① 基本的生活習慣の定着 ②-1 生徒理解と相談体制の充実 ②-2 いじめ防止対策 ③ 交通指導の充実	評価指標 ① 遅刻せずに登校する生徒 ②-1 教職員が適切に指導しているとする保護者 ②-2 自他ともに大切に作る指導に取り組む教職員 ②-3 いじめ問題等相談しやすいとする生徒 ③ 交通ルールを守っている生徒	評価指標の達成度 ① A ②-1 A ②-2 A ②-3 B ③ A	(評定) A	朝や休み時間の巡視の際には、生徒の様子をよく観察して、ちょっとした変化に気づいてほしい。先生方は、生徒と関わりながら、アンテナ高く状況を把握し、声かけを行ってほしい。クラスや学年、学校全体の雰囲気をおやかに気づいてほしい。 また、生徒のことについては、教育委員会の補導センターに相談することも有効である。
		活動計画 ① チャイム着席・校内巡視・時宜を得た声かけ ②-1 相談体制の確立(2S・3S) ②-2 生徒指導委員会を活かした校内体制の確立 ③ 計画的な安全教育への取り組み	活動計画の実施状況 ① 朝と休み時間の巡視や時宜を得た生徒への声かけ等を実施した。 ②-1 3s(SC・SSW・SL)を中心とした専門的な相談と随時家庭連絡を実施した。また、適応指導教室(すだち学級)と連携を図った。 また、関係機関と連携し、ASSTを行った。 ②-2 年3回、生活アンケートを行ったり、生徒指導委員会で情報共有したりしながら、未然防止に努めた。 ③ 交通安全教室と登下校時の立哨指導を適宜実施した。	(所見) 生徒指導主事を中心に、いじめや問題行動の未然防止、早期発見に取り組んだ。また、関係機関との連携や3Sの先生方から専門的な助言・指導をいただき、生徒指導に役立てることができた。 1年生の交通安全教室や登下校の立哨指導を通して常時交通安全指導を行っている。	校区内には、昔から登下校に危険な箇所がある。地域の特性を理解して登下校できるよう、生徒に注意喚起を行ってほしい。PTAの校外補導部を活用して、生徒の安全を見守ってもらうのも一つの方法だと思う。

南部中学校総括評価表 (No2) 令和5年度末

自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見
4 保健指導・給食指導 ・環境美化	① 保健指導の徹底 ② 給食指導の徹底 ③ 環境美化の推進	評価指標 ①-1 健康に気をつけている生徒 ①-2 健康に生活できるよう指導する教職員 ②-1 食生活に関心を持っている生徒 ②-2 食生活を見直すよう指導する教職員 ③-1 清掃活動に積極的な生徒 ③-2 清掃指導ができていると考える教職員	評価指標の達成度 ①-1 A ①-2 A ②-1 B ②-2 B ③-1 A ③-2 A	(評定) A
		活動計画 ① 保健指導計画の立案と学校保健委員会の開催 ② 給食指導計画の立案と給食時間の指導 ③ 清掃計画の立案と清掃指導	活動計画の実施状況 ① 毎月の「保健だより」発行と、学校医・学校歯科医参加による学校保健委員会や教職員の緊急時対応シミュレーション研修を実施。 ② 食中毒・感染症を予防を中心とした給食時間の指導と「食育タイム」の充実を図ったり、生徒への食の一言助言も実施したりした。またALTと連携し、世界の料理紹介等についての掲示をすることより、生徒の食への関心を高められるよう努めた。 ③ 学校行事などに際して特別清掃を実施し、教職員と生徒が清掃を行い、行事等を前に清掃をすることの重要性を伝えるように努めた。	(所見) 非常時に備え、緊急時対応シミュレーション研修を行った。「保健だより」「給食だより」を発行し、生徒だけでなく家庭にも啓発を行った。 全校生徒、教職員ともに校舎内外の美化に努めることができた。
5 図書館教育・キャリア教育・生徒会活動	① 図書館の積極的な活用 ② 進路指導の充実 ③ 生徒会活動の活性化	評価指標 ①-1 年間10冊以上本を読む生徒 ①-2 授業で図書室を活用する教職員 ②-1 将来の職業に関心がある生徒 ②-2 継続的な進路指導をしている教職員 ③-1 生徒会行事等に積極的な生徒 ③-2 専門委員会が充実していると考える教職員	評価指標の達成度 ①-1 C ①-2 C ②-1 B ②-2 A ③-1 B ③-2 B	総合評定 (評定) B
		評価指標 ① 「図書室カレンダー」の発行とお薦めの本の紹介 ② 3年間を見通した進路指導計画の立案とキャリア教育の立案・実施 ③-1 生徒会活動の見直し ③-2 「あいさつ運動」の実施や「意見箱」の設置	活動計画の実施況 ① 毎月発行の「図書便り」にて、開館日のカレンダーと新入荷本やお薦めの本の紹介を行った。 ② 第2学年で総合的な学習の時間に、職業について学習を行うことができた。なお、その際には図書室の資料を有効に活用できた。また、第3学年は1年を通して進路選択について粘り強く指導を行った。 ③-1 生徒会役員を中心に、校則の見直しを行ったり、昨年度に引き続き「届けよう服のプロジェクト」を実施したりし、主体的な取組を行っている。また、専門委員会でも、能登半島沖地震の募金活動など自主的な活動が見られた。 各専門委員会で自主的な活動を実施した。 ③-2 生徒会活動の本部役員があいさつ運動や意見箱に意見に多く挙がっていた、校則の見直しなどリーダー的立場で活動できた。	(所見) 図書便りを読んで本を借りに図書室へ来る生徒は、もともと本好きの生徒である。読書への興味を持たせるためには教室掲示だけでなく、授業や学活で紹介するなど全員への働きかけが必要である。 9割の教員が適切な進路指導ができたと回答した。また、職業に関心を持つ生徒は同様の調査の全国平均より高かった。指導が一定の成果を生んでいると判断している。
6 人権教育・道徳教育 ・特別支援教育	① 人権教育の推進 ② 道徳教育の推進 ③ 特別支援教育の推進	評価指標 ①-1 学校に来るのが楽しい生徒 ①-2 温かい言葉がけをしている教員 ② 私には良いところがあると考える生徒 ③-1 友だちの良さを見つけている生徒 ③-2 支援の必要な生徒を把握している教員	評価指標の達成度 ①-1 B ①-2 A ② B ③-1 A ③-2 A	(評定) A
		活動計画 ① 人権教育主事を中心に人権教育の実践 ② 道徳教育推進教師を中心に活動計画を立案 ③ 入学前を含めて年間4～5回の教育相談を実施して、特別な支援を必要とする生徒の要望に応じた支援に努める。	活動計画の実施状況 ①人権教育主事を中心に活動計画に基づいて活動した。また、講師先生をお招きして人権コンサート等を実施した。 ②道徳教育推進教師を中心に学年の活動計画に基づいて校内研修を実施した。 ③校区内小学校支援学級との連携を強化し、参観授業ならびに個別の要望や支援についての面談を実施した。	(所見) 生徒の良さや頑張りを認めたり、誉めたりする姿勢を教職員が意識して行えている。生徒の自己肯定感をいっそう高められるような活動を今後も継続的に取り入れてくことが大切である。

「評定」の基準 A:十分達成できた B:おおむね達成できた C:達成できなかった